

# 城原川だより 83号城原川を考える会

【ダムに抛らない治水をめざすには】

2019 2. 22日(金)

次回発行予定 2019年 3月 20日 (水)

9カ所ある城原川の野越、霞堤を下流域から紹介していますが、今回は5号野越について記してみます。

5号野越は、前号で紹介した6号野越（鶴西野越）から300mほど上流の土手の西側にある野越です。ここは受け堤がきれいに残っていて、溢れた水は、受け堤に導かれ道路を横切り、西を流れる横落水路に落ちるようになっています。横落水路のそばの、この道路は農業用道路ですが、水が落ちる部分はそこだけが低くなっていて、道にも野越機能を持たせてあることがわかります。



上記写真の左下の方で、弓なりになっている緑の帯状のところが受け堤です。全長約130mほどです。1)



(上写真 受け堤を北側から見た)



(対岸から見た 5号野越)

川のすぐそばは石垣が積まれて頑丈ですが横落水路に近づくにつれて低くなり最後は畔と見まがうほどです。越流長（水が溢れ出る長さ）は14mです。9カ所あるこれらの不連続堤のなかでも3番霞堤と並んでいちばん短いものになっています。

### 嵩上げされている野越、霞堤

終戦直後、数多くの台風と集中豪雨に見舞われた城原川流域でしたが、特に昭和24年8月のジュディス台風では総雨量一億トン（北山ダム満水五杯分）と推定され、城原川もあちこちが破堤しました。2) その災害を受け、川で330トン/秒、野越と霞堤から溢れさせて120トン/秒、合計450トン/秒を流す計画で災害復旧の工事が始まりました。4年後28災が起りましたが、計画の変更はなく、改修工事が進みました。

現在690トン/秒流れたとされている28災ですが、もし本当にその様な流量であったのなら28災の時点でなんらかの見直しがあったはずですが、28年9月に県が国に報告した「災害実相報告書」にも最高流量は300トン/秒～330トン/秒と書いてあります。3)

690 トン/秒流れたという国の試算の根本がとわれるところですが、それはそれとして、平成21年、22年の豪雨でも5号野越は越流していません。平成21年の流量は450トン/秒と発表されています。そのうち20トン/秒は、霞堤4カ所と6号野越（鶴西野越）から溢れたので、川には計画を上回る、430トン/秒がながれたこととなります。それでもこの5号野越は越水しませんでした。ただ、これら霞堤や野越は昭和41年～42年の間に1.5m嵩上げされています。1)

そのことについて、鶴西の住民の方のお話の記録（1999年）がありますので、以下少し記してみます。

#### 24 災では朝日橋付近の堤防が破堤して多大な被害がでたが

鶴西の部落は被害を受けず、水一滴も入らなかった。これは部落を囲むように背の高さほどの受堤があり、これが防いでくれた。野越のNo. 5、No. 4、No. 3にも受堤があった。利田の2ヶ所の野越を超えた水は配置された受堤に沿って馬場川に流れるようになっていた。被災後昭和25年に城原川改修事務所ができ本格的な復旧が始まった。

昭和39～40年頃に鶴西地区を含む付近の部落とともに圃場整備を立ち上げることとなったが、その時問題になったのが受堤（鶴西と日出来の間にあり、日出来の野越からの越流した水を受けて神崎中学校や神崎総合庁舎の間にある水路に同流させる堤）である。受堤があると生産性、作業性が悪くなるために、地元は受堤の撤去して、野越の高さを上げるように当時の三池代議士の所へ説明に行った。翌日三池代議士と地元住民が改修事務所に説明に行った。改修事務所の説明では800mmの計画雨量でそのうち500mmは城原川へ、300mmは野越に流す計画だった。しかし実際に工事が終了したが野越の改良までは行われなかった。改修前の説明では野越の高さを堤防の天端から1.5m下がり野越を上げる計画だった。このことを代議士に話したら、代議士が改修事務所に文句を言いに行ったそうで、改修事務所のお偉いさんが怒られたそうである。のちに日出来の野越は1.5m程度高くなった。のちに城原川の野越は昭和41～42年頃までにすべての野越の改修が終わった。38災の時に日出来の野越しからだけ越流したが、その時下流の新宿付近では堤防天端より30cm下がりの位置まで水が上がった。仮に堤防を越えるようなことがあった場合は、千代田付近はすべ

ての堤防から水があふれることになる。それだけ堤防の高さに余裕がありすぎると思う。1)

というものです。

上記の聞き取り調査で証言されているように、野越が嵩上げされると下流に大きな危険が及びます。1.5m嵩上げされているため、平成21年の豪雨時では野越からは20トン/秒しか流れず、430t/秒もの流量が流れました。河川的能力としては330トン/秒です。しかも、まだその能力に応じた河川整備は出来ていないのが現状です。そのため、各所で漏水が起こり、特に神埼橋下流の左岸側（東側）にある神陽団地は破堤の危険にさらされました。付近でかなりな漏水があったためです。水防団の「月の輪工法」等の必死の対処で破堤を免れました。また、下流域は大潮の満潮時とも重なり、最悪の事が予想されましたが、運よく堤防が耐えました。今後は、これら堤防の適正高の検討が必要であるとともに、ダムのは是非にかかわりなく、必要な場所の耐越水堤防の整備が急務です。

- 参考文献 1) フジコンサルタント（株）（於保 泰正）：城原川の治水、利水、生活用水の調査報告 建設省筑後川工事事務所諸富出張所 1999  
2) ふるさと雑記帳 手塚辰夫（佐賀新聞社発行）  
3) 「災害実相報告書」 昭和28年9月 佐賀県

**月曜勉強会（祝祭日を除く毎月曜日） 10：00～12：00 千代田町福祉センター**  
**皆様のご参加お待ちしております**

**第122回定例会 3月20日 水 14：00～16：00 神埼中央公民館**

**第123回定例会 4月26日 金 14：00～16：00 神埼中央公民館**

**定例会 参加費用（資料代） 200円**

代表 佐藤 悦子 〒842-0056 神埼市千代田町境原 282-12  
電話 0952-44-2925

副代表 平田憲一 〒842-0122 神埼市神埼町城原 1877-1  
電話 0952-52-2827

Mail : [teaho74@yahoo.co.jp](mailto:teaho74@yahoo.co.jp)

メールまたは、上記各連絡先へ、ご意見、疑問、質問、反論、どしどしお寄せ下さい。  
文責 佐藤 悦子